

琉球大学 教育 藤原綾子

目的 今年は第二次大戦終結から50年の節目にあたる。沖縄が祖国復帰をしてからも早や20年を経過した。昭和20年から47年までの27年間の沖縄はアメリカ統治下にあった。この頃をアメリカ統治時代と呼んでいる。このアメリカの統治が住民の衣生活にどのような影響を及ぼしたのか、今回若干の検討を試みた。

方法

アメリカ統治時代の住民生活の特徴について、米国民政府発行の「中礼の光」(1959年1月創刊号～1972年5月最終号まで)及び沖縄タイムス「私の戦後史」(1979年3月から連載)等と手かかりにとらえる。又「沖縄人と米人の服色嗜好に関する一考察」(1964年)、「沖縄本島における沖縄人の服色嗜好に関する研究」(1967年)、これ等の論文を手かかりに居住地域の異なる住民の服色嗜好をさぐる。

結果

戦後の沖縄住民の衣生活は米軍放出物資や配給物資のリフォームで始まり、早い時期から洋装化が進んだ。統治時代の生地の販売単位はヤードであった。アメリカ人と日常的に接触している地域では服の色は暖色が好まれ、そうでない地域よりも比較的に彩度の高い色が服色として好まれた。